

## 和漢診療科症例群－漢方治療

### 文献

大野賢二, 関矢信康, 並木隆雄, 他. 漢方治療がもたらす医療経済効果 入院治療を中心として. 日本東洋医学雑誌 2011; 62(1): 29-33.

### 1. リサーチクエスション (research question)

和漢診療科に入院した患者の治療を目的とした、入院時の治療の費用対効果を、退院の時の治療を対照とした費用結果分析法により評価する。

分析の立場 : 記載なし (医療費支払者?)

### 2. 対象集団と介入 (interventions)

対象集団 : 2006年9月から2008年10月の間に千葉大学附属病院和漢診療科に入院した患者35名 (男性13名、女性22名、平均年齢60.6±18.1歳)

漢方治療効果を評価し得ない転科、急性疾患などを除外した。

介入群 : 退院の時の35名の患者

対照群 : 入院の時の35名の患者

### 3. セッティング (location/setting)

日本、詳細は不明

### 4. 方法 (methods)

・コスト : 直接コスト (薬剤費のみ)。データ収集期間は2006.09-2008.10。

・アウトカム : 西洋薬の平均薬剤数。データ収集期間は2006.09-2008.10。

・割引率 : 記載なし。

### 5. 結果 (results)

|     | コスト (JPY)  |            |           | アウトカム       |
|-----|------------|------------|-----------|-------------|
|     | 平均西洋薬費用/1日 | 平均漢方薬費用/1日 | 平均総薬剤費/1日 | 西洋薬の平均薬剤数   |
| 退院時 | 227.6      | 120.4      | 348.0     | 2.7±2.6 剤   |
| 入院時 | 302.1      | 135.7      | 437.8     | 3.7±3.2 剤   |
| 差分  | -74.5      | -15.3      | -89.8     | -1.0 剤 (平均) |

・1日あたりの平均西洋薬費用と総薬剤費については、退院時が入院時より有意に減少した。平均漢方薬の薬剤費については入院時と退院時の間に有意差がなかったが、退院時がより低かった。

・入院中廃薬となった西洋薬剤には消化性潰瘍治療薬が最も多く、次いで解熱・鎮痛・抗炎症薬、下剤、抗うつ薬、抗不安薬が多かった。

### 6. 著者の結論 (authors' conclusions)

・本調査は種々の疾患に漢方薬を適正使用することで、患者の病状が改善すると同時に薬剤費節減という医療経済的有用性がもたらされる可能性を示した。

### 7. Abstractor のコメント

・著者らは生態学的研究を行い、同じ患者集団の入院時と退院時での薬剤費を比較し、当院の和漢診療科の漢方治療によって医療費を節減する可能性を示唆した。ただし、入院時と退院時の患者の病状が不明で、入院前と入院中に受けた治療や、漢方薬の処方内容は具体的に報告されておらず、結果の妥当性と外挿可能性に疑問が残る。

・コストの計算に頓服薬、外用薬、注射薬が組み込まれていない。今後それらのコストを把握した上での、より包括的な経済評価が期待される。

### 8. Abstractor and date 唐/五十嵐 2012.3.5